



# くらしのニュース1月号

## 今後の価格動向が気になります



燃料の価格高騰が続いていますが、道内平均価格では、ガソリンは11月下旬から毎週約1円ずつ値下がりし、12月15日公表では約3円の値下がりです。

一方、ガソリンよりも遅れて価格が変動する傾向がある灯油は、直近4週間で113円台が続いており、大きな価格の変動はありませんでした。

道内平均の灯油、ガソリン価格の推移（週次）※石油情報センター調査、都道府県別価格推移表より

品目	調査日（毎週月曜日調査、水曜日公表）			
	11月22日	11月29日	12月8日	12月15日
灯油 （ホームタンク用配送料込）	113.7円	113.6円	113.7円	113.7円
ガソリン （レギュラーフルサービス）	168.0円	167.9円	166.5円	163.0円

市内平均の灯油、ガソリン価格の推移（月次）※苫小牧消費者センター調査。調査日：毎月1日

		R3年11月	R3年12月
灯油 （ホームタンク用配送料込）		107.08円	112.4円
	一昨年比	+14.4円	+19.4円
	昨年比	+29.5円	+34.9円
	前月比	+10.3円	+5.3円
ガソリン （レギュラーフルサービス）		168.71円	165.57円
	一昨年比	+19.9円	+17.2円
	昨年比	+41.2円	+31.5円
	前月比	+7.7円	-3.1円

### 胆振は灯油価格が安い？

北海道が調査する生活圏域（道内20地域）の11月の灯油価格は、東胆振地域の家庭用灯油価格が道内で一番安くなっており、106.1円/ℓとなっています。

ちなみに、札幌市は107.5円/ℓ、また、道内最高価格の地域では、114.4円/ℓでした

（※いずれも北海道消費者モニター調査。ホームタンク用配達料込、灯油1ℓあたり）。

東胆振地域は、量販店やフリート店のガソリンスタンドが域内に多くあり、他地域に比べて価格が低い傾向にあります。

### 暖房の主役はやはり灯油

市民生活課が例年行っている「家庭の燃料等の消費実態調査」の結果では、約73%が家庭の暖房設備として灯油を使用しており、年間の使用量は灯油ストーブ使用世帯では平均1,157ℓ/年、セントラルヒーティングの使用世帯では、平均1,850ℓ/年となっています。大半の家庭での年間使用量が1,000ℓ超となっていることから、家計への影響も心配されます。

### 燃料価格の高騰はいつまで続くの？

燃料価格はその時々世界的な原油の需要と供給のバランスや、原油取引相場の動向、OPECプラスなど産油国の供給体制、消費国側の政策などに加え、新型コロナウイルスの流行状況や世界経済の動向など、多くの要因が反映しているため長期的かつ正確な予測は非常に困難です。

最近の報道では、脱炭素社会を見据えた石油の需要減少を見込んだ産出国側が、相場の値崩れを警戒し、大幅な原油の増産を控えている状況が価格高騰に大きく影響していると指摘されており、情勢に大きな変化がない場合、高値傾向が続くという見方もあります。

## 石油に関する豆知識



### 原油

原油とは、油田から採取されたままの天然の石油の事を言います。

原油は一般に黒褐色の粘り液体で、成分のほとんどを炭化水素が占めています。地質時代に堆積した動物性プランクトンが、化石化した後に化学変化を起こすことによってでき、化石燃料とも言われます。

### 化石燃料

化石燃料とは、石油、石炭、天然ガスなどを指します。微生物の死骸や枯れた植物などが何億年という時間をかけて化石になり、やがて石油や石炭になったと考えられていることからこう呼ばれています。

この化石燃料は量に限りがあり、また、化石燃料を使うと二酸化炭素が増えるため、地球の温暖化の一因にもなっています。現在は、化石燃料に代わるエネルギー源として、自然エネルギーなどの開発が進められています。

### 原油自給率

経済産業省資源エネルギー庁によると、日本の原油自給率は0.5%の水準を継続し、約8割以上を中東産の原油を輸入しています。特に輸入量が多いのはサウジアラビアとアラブ首長国連邦であり、それぞれシェアが34.1%及び32.7%となっています。

また、1バレル（約159ℓ）から精製されるガソリン約24%に対し、灯油は約11%です。